

夏季の高温対策－クロコブタケ対策－

令和8年6月
大分県きのこグループ

1. クロコブタケとは？

(1) 木材腐朽菌

シイタケ菌と同じクヌギを栄養に生長
シイタケ菌が伸長した部分には侵入できない

(2) 早春から活動、温度が高いと発芽・生長共に良い

早春（5℃～）から発芽、生長
高温（20℃～35℃）で最もよく発芽、生長

(3) 発芽・生長には水分が必要

湿度95%以上で発芽
ほだ木の水分量が多いほど生長は良い
過乾燥で感染後の被害拡大が助長



不完全世代（初期）
黄緑色～灰色のカビ状



完全世代
黒色、半球状のきのこ

2. 令和7年秋起こし木のクロコブタケ被害の要因

R7秋起こし木の伏せ込み期間の旬別平均気温と降水量（犬飼）



要因①：植菌時期の高温・多雨 ➤ クロコブタケの侵入誘発
要因②：高温少雨による過乾燥 ➤ クロコブタケ被害の拡大

3. クロコブタケ対策

対策1：適期伐採、玉切りによる葉枯らし作業

葉枯らしにより材内部の水分を抜きクロコブタケの侵入抑制を図る

対策2：早めの植菌作業

早めの植菌作業でクロコブタケ侵入前にシイタケ菌伸長を図る

近年、**春の気温上昇が早いので植菌作業は早めに行う**ことを心がける

対策3：早春から原木・ほだ木に直射日光を当てない

早春でも直射等により原木温度は上昇するので、笠木等でほだ木表面温度の上昇を抑え、クロコブタケの侵入抑制を図る

R8.4.8 15:00 外気温：18.8℃



対策4：夏季の高温（直射）対策

・裸地伏せ

①遮光ネットの直掛けは厳禁

夏の直射で遮光ネットは高温となるため、**入れ木と遮光ネットの間に20cm程度空間を設け**、遮光ネットの熱が直接ほだ木に伝わらないように注意する

②遮光率の低いネットを使用する場合は、遮光ネットと入れ木の間に笠木等を補充し、ほだ木温度の上昇を抑える

③定期的な見回り、補修でほだ木に直射が当たらないよう注意する

・林内伏せ

夏季の高温環境を避けるための伏込管理

明るく通風環境のよい林内での管理が重要



遮光ネット直掛け・ズレ
(高温障害のリスク大)



空間を設けて遮光ネット設置



林内伏せ
(通風環境のよい場所に伏せ込む)